

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (ものづくり・地域産業コース)		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	小澤大音	学年	2年

1. はじめに

1 私は「ふじのくに地域探究コース」を利用し、アメリカ・ロサンゼルスに15日間留学しました。

本報告書では、留学の目的、現地での活動内容、調査結果、および今後の展望についてまとめます。

2. 留学の目的

本留学の探究テーマは「IR産業をアメリカで学び、静岡の地域活性化とその実現可能性を探る」です。日本国内では、公営ギャンブルやパチンコ・スロットによる経済効果が大きく、ギャンブル市場規模は世界のカジノを上回るとも言われています。また、2018年にカジノ建設を推進する法律が施行され、2029年には大阪で日本初の統合型リゾート（IR）の開業が予定されています。交通の要所として発展してきた静岡が、大阪に次ぐ第二のIR誘致地域としての可能性を持つかどうかを検証するため、本テーマを設定しました。

3. 現地での活動

3.1 語学学校での調査

語学学校に通いながら、先生やクラスメートを対象にアンケートを実施し、アメリカ在住者のカジノに対する意識を調査しました。また、アンバサダー活動の一環として、日本文化の紹介を目的に、アンケート協力者に扇子などの日本の伝統品を配布しました。



3.2 ラスベガス・ロサンゼルスでの調査

週末や休暇を利用し、ラスベガスを含むさまざまな観光地を訪れ、現地住民や観光客を対象にアンケートを実施しました。対象者を「ラスベガス在住者」「ロサンゼルス在住者」「アメリカ在住の日本人」に分類し、それぞれ異なる質問を設定することで、地域ごとの意識の違いを分析しました。

3.3 調査結果と考察

アンケート結果から、ラスベガスや日本の回答者に比べ、ロサンゼルスの回答者はカジノに対して消極的な意識を持っていることが判明しました。同じアメリカ国内でも都市ごとにカジノに対する考え方が異なる点が興味深く、ラスベガスのタクシードライバーへのヒアリングを通じて、IR産業の実態をより深く理解することができました。



4. 静岡での IR 誘致の可能性

帰国後、調査結果をもとに静岡での IR 誘致の可能性について考察しました。その結果、静岡市内に大規模な IR 施設を建設するのは、騒音問題や土地の制約から現実的に難しいとの結論に至りました。しかし、

- 日本がギャンブル大国であること
- 静岡が大都市間の中間地点にあり、アクセスが良いこと
- 静岡には森林資源が多く、新たな自然融合型リゾートの開発が可能であること

などの要素を踏まえ、今までにない新しい形のリゾート開発の可能性があると考えました。

5. ホストファミリーとの生活

ホストファミリーはアメリカの剣道代表の方でした。事前に剣道について調べることで円滑なコミュニケーションを図り、「不動心」「百戦錬磨」といった文字が入ったハチマキをプレゼントしました。また、チーム USA の剣道練習を見学し、代表選手たちの稽古の迫力を肌で感じる貴重な経験をしました。



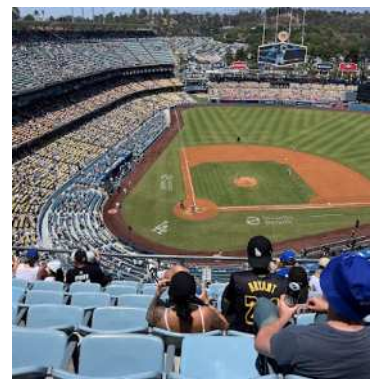
6. アンバサダー活動

日本食や日本茶を提供し、日本文化の紹介を行いました。特に好評だったのは、日本から持参した「食べるラー油」で、ホストファミリーに喜ばれました。

7. 文化体験

放課後には、語学学校のクラスメートとともにスクールアクティビティに参加し、

- ドジャースの野球観戦
- カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のキャンパス見学などを行いました。特に、アメリカのスポーツ文化の熱気は想像以上で、スタジアムにいた観客の盛り上がりには圧倒されました。



8. 留学の成果と今後の展望

本留学を通じて、IR 産業の社会的受容度や地域への影響を深く学ぶことができました。また、異文化理解を深める貴重な機会となり、多くの知見を得ることができました。

今後は、今回の経験を活かし、次に留学を目指す人たちへの支援を行うとともに、自身のキャリア形成に役立てていきたいと考えています。最後に、本留学を支えてくださった家族や関係者の皆様、現地で協力してくださった方々に深く感謝申し上げます。

以上